

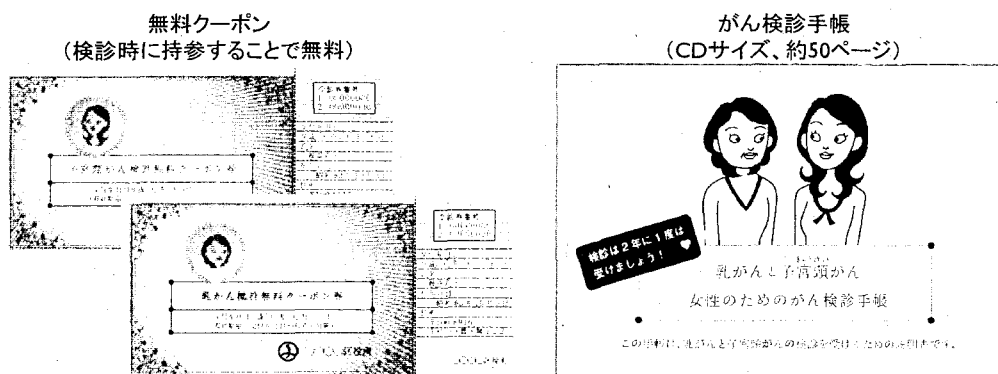
「女性特有のがん検診推進事業」 評価のためのアンケート解析結果概要

厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業「標準的検診法と精度管理にかかる新たなシステムなどの開発に関する研究班」主任研究者 国立がんセンターがん予防・検診研究センター検診研究部長

斎藤 博

調査の背景

- ▶ 平成21年度補正予算により、女性特有のがん(乳がん・子宮がん)のがん検診の無料化が行われ、節目年齢の女性(20歳、25歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳)に対して、検診の無料クーポン券およびがん検診手帳が各自治体から配布された。
- ▶ 大規模事業(予算216億円)であるということ、また来年度以降も継続する可能性が高いことを踏まえ、施策効果の検証をする必要がある。
- ▶ 厚生労働省からの依頼にて、効果検証のための調査を実施することになった。
- ▶ フィールドとして福井市で調査協力が得られ、調査・研究を行った。



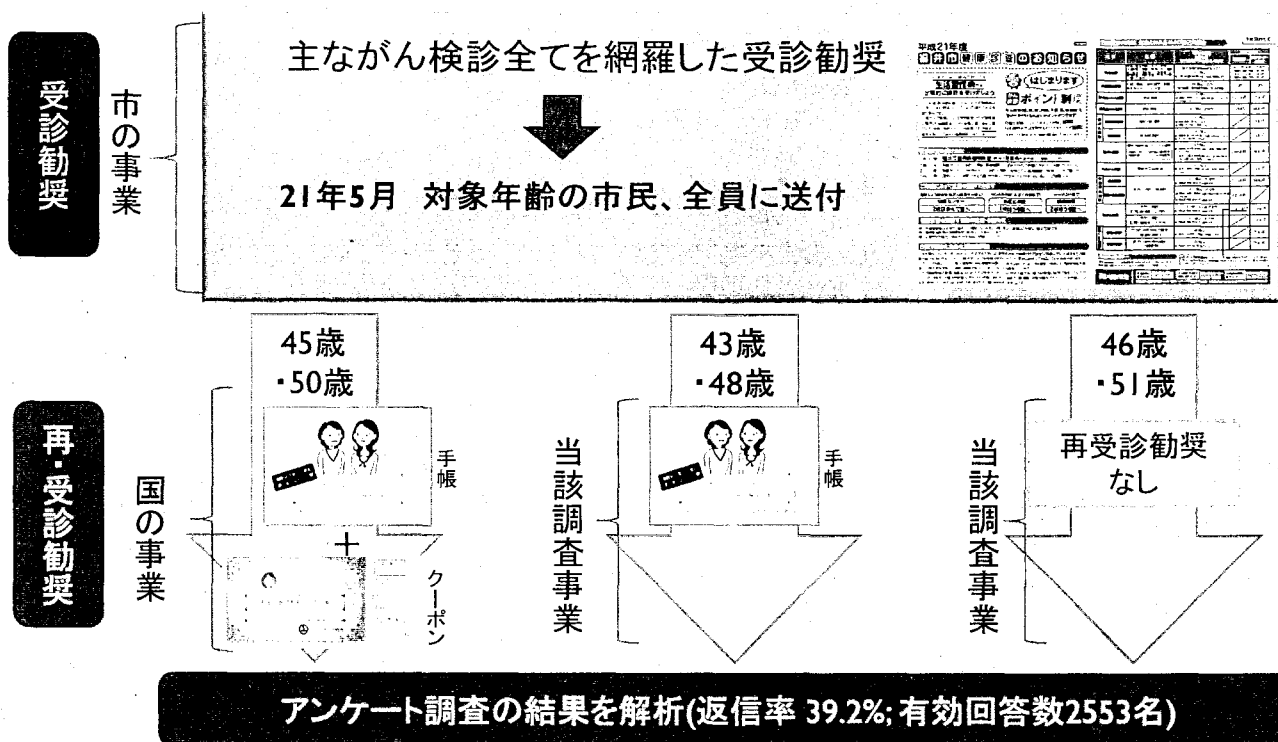
調査の目的

- ▶ 平成21年度補正予算による、女性特有のがん(乳がん・子宮がん)のがん検診に係るクーポン券やがん検診手帳の配布について、その施策効果を検証する。具体的には、以下のことを目的とする。
 - クーポン・手帳が今年度の受診者に与えた影響は？
 - クーポン・手帳が継続的な受診意図に与えた影響は？
 - 世代別の効果の違いは？

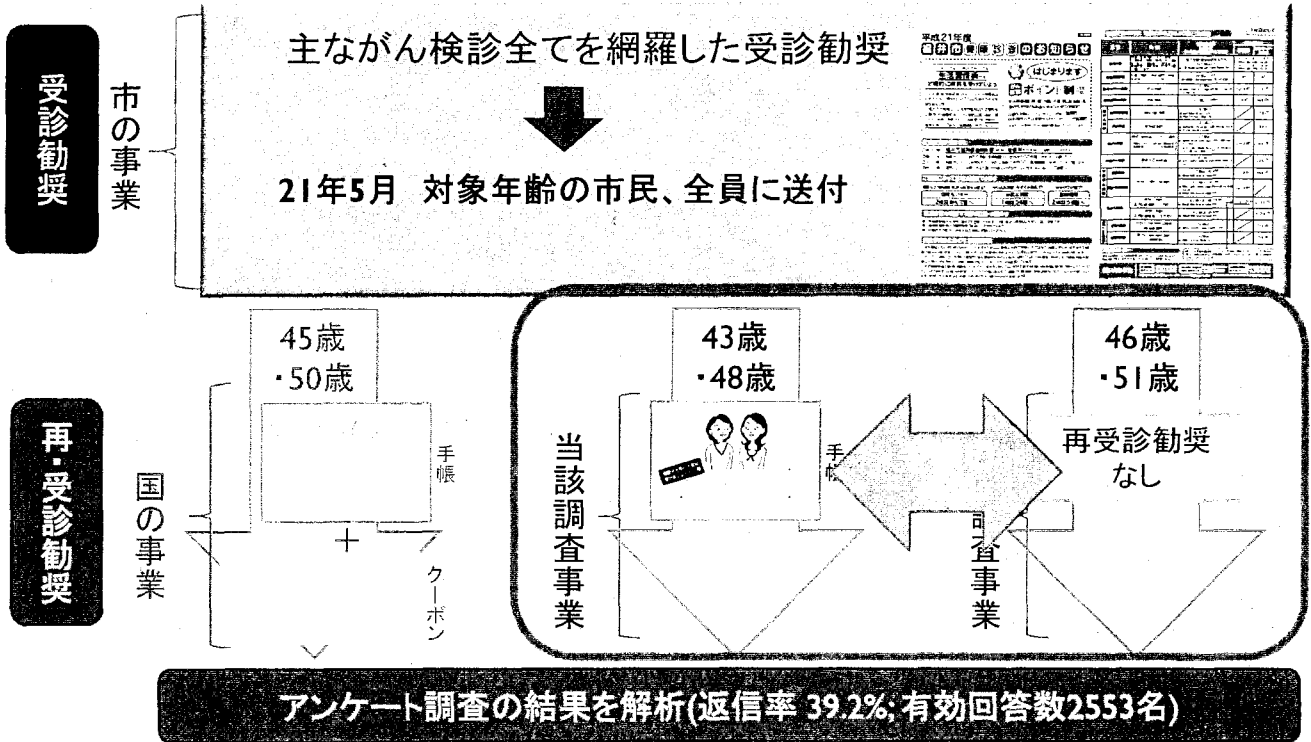


これらを踏まえて、今後の対応を検討するための提言を国に対して行う。

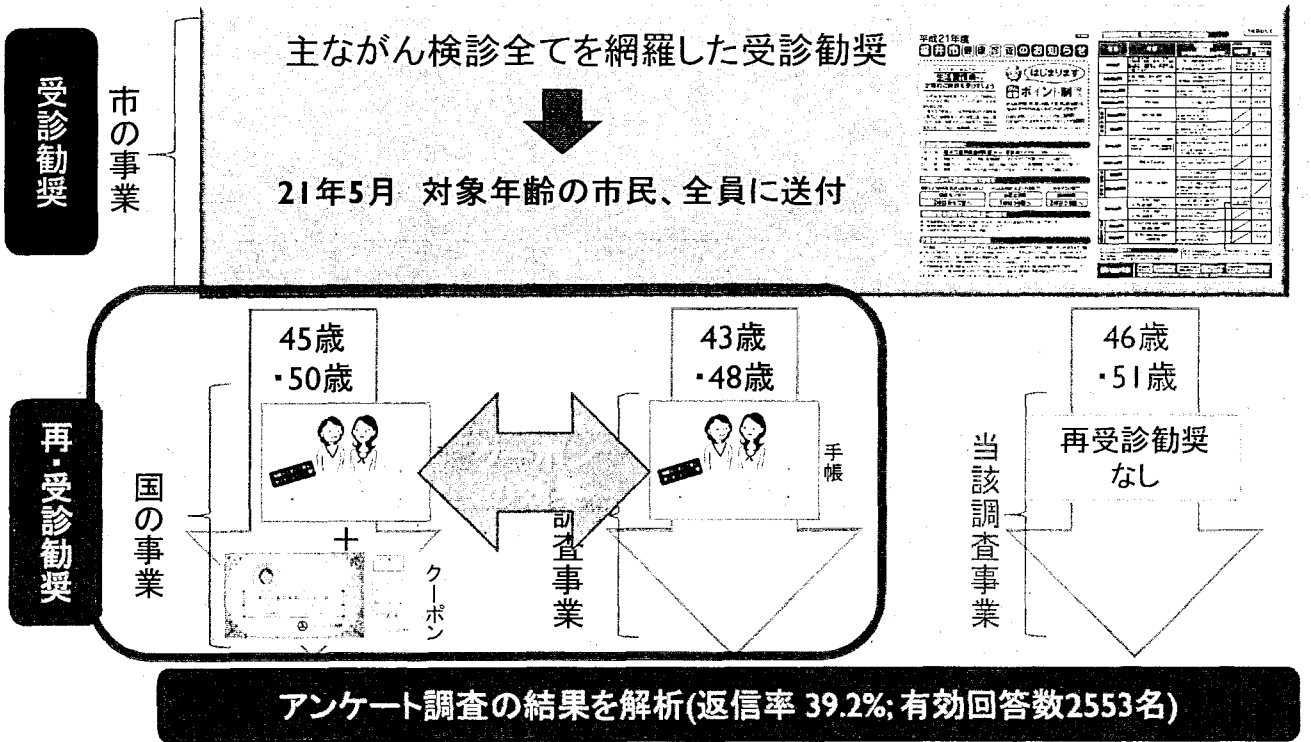
調査設計



調査設計



調査設計



今回の解析で検討できること

ー参考：対がん協会によるアンケート（2010.3報告）との比較

リサーチクエスチョン	今回の解析	がん協会の集計
本事業ががん検診に与えた影響		
I 配布群における事業の認知	○	△
II 事業の認知と意識の関係性	○	×
III 意識と受診・意図の関係性	○	×
IV 事業の実施が受診・意図に与えた効果	○	△
未受診者の未受診理由	○	×
年代別の受診・意図に与えた効果の違い	○	△

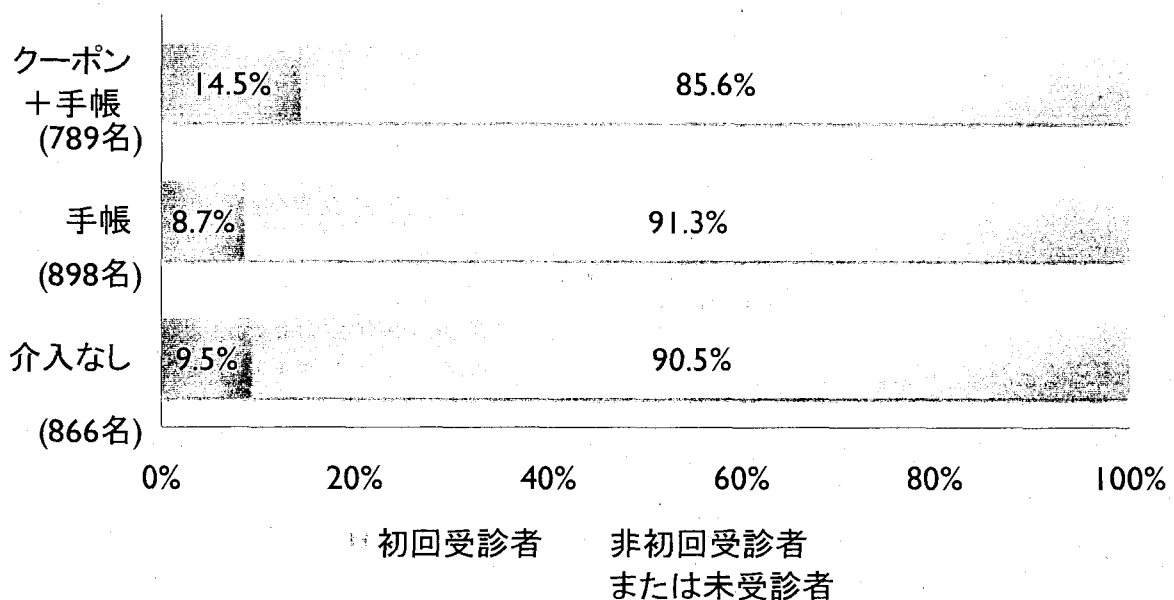
○:十分な検討が可能な項目

△:集計されているが比較性が低いなどの理由で十分な検討ができない項目

×:集計に含まれず検討できない項目

検診手帳・クーポンの効果(初回受診)

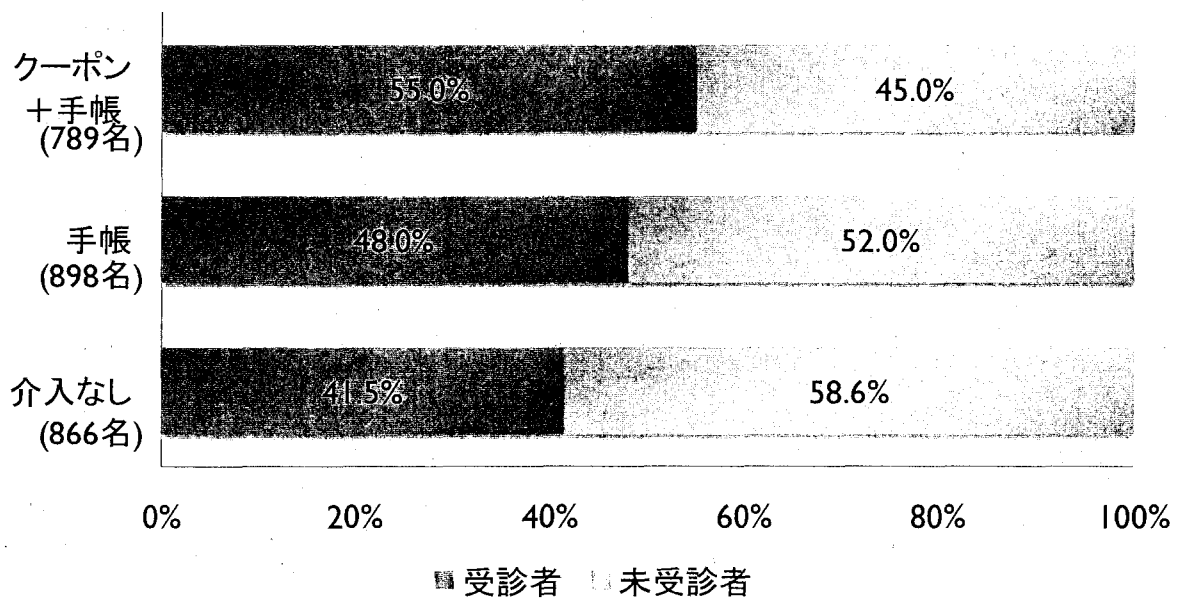
▶ 手帳の効果は見られなかったがクーポン配布群で統計学的に有意な初回受診率の向上*



* p<0.001

検診手帳・クーポンの効果(すべての受診)

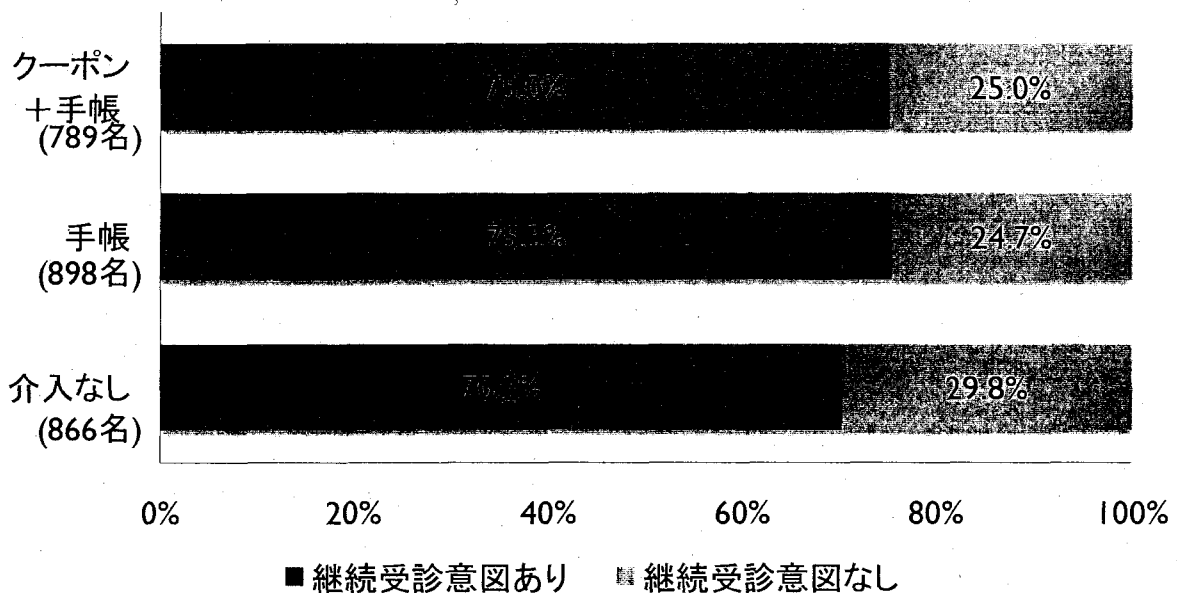
▶ 手帳*・クーポン**それぞれにおいて有意な受診率の向上が見られた



* p=0.006 ** p=0.004

検診手帳・クーポンの効果(今後の継続受診意図)

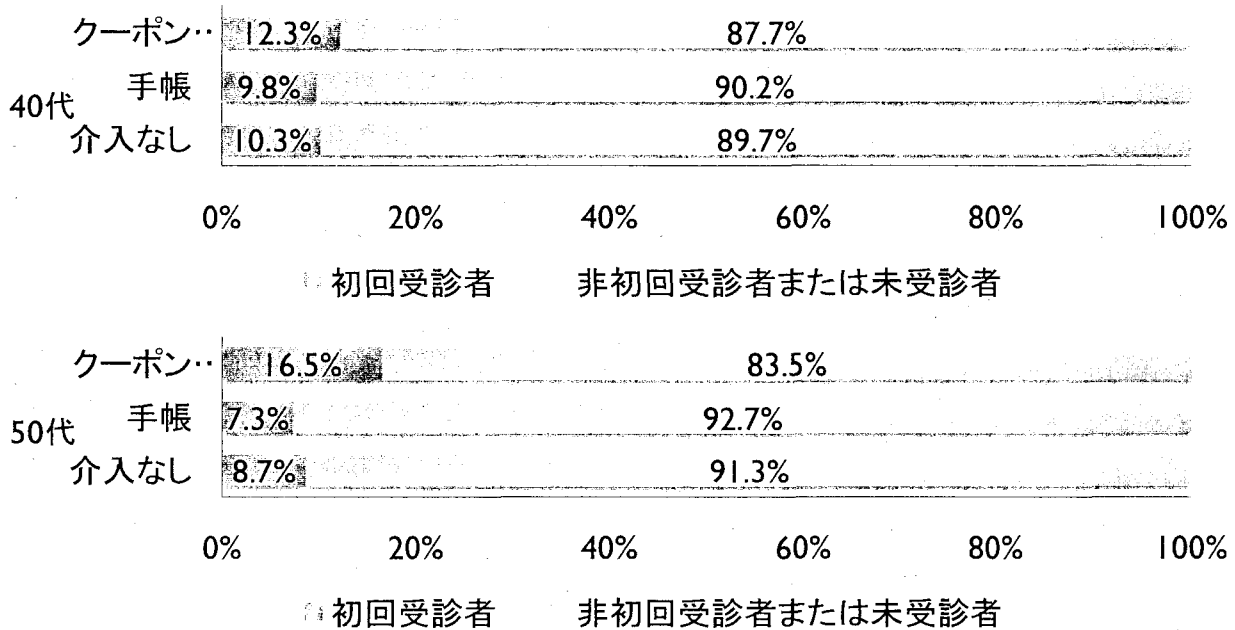
▶ 手帳を配布した群で有意な意図の向上が見られた*一方クーポンの影響は見られない



* p=0.017

年代による違い(初回受診に与える効果)

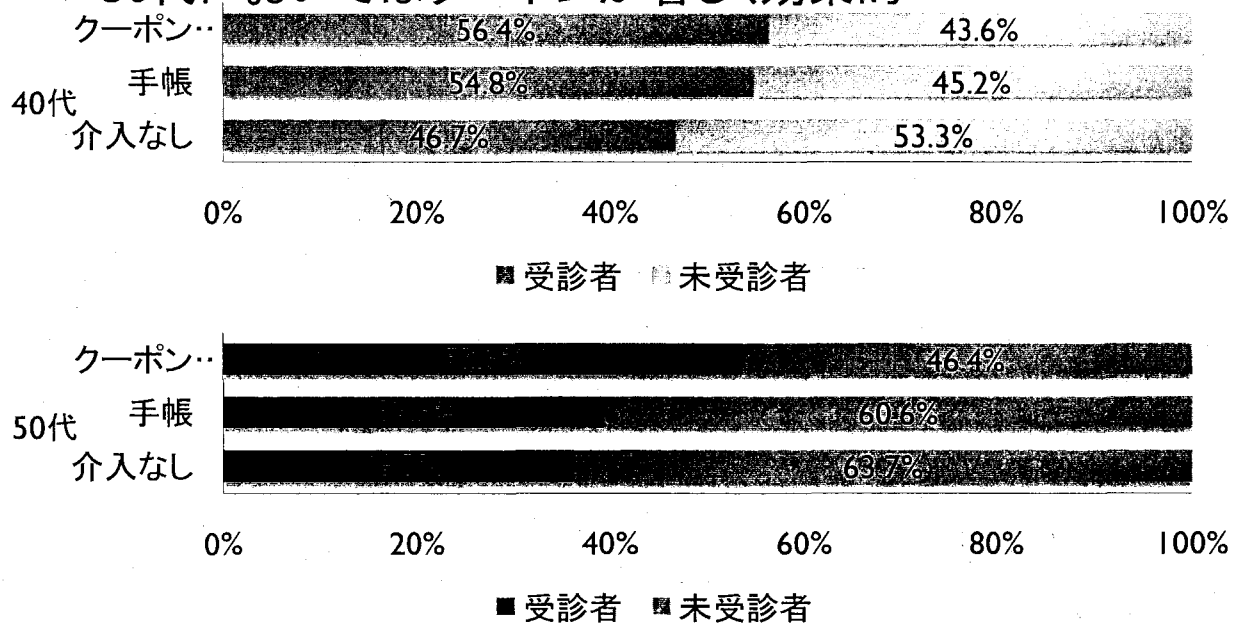
▶ 50代におけるクーポンがとくに効果的



年代による違い(全ての受診に与える効果)

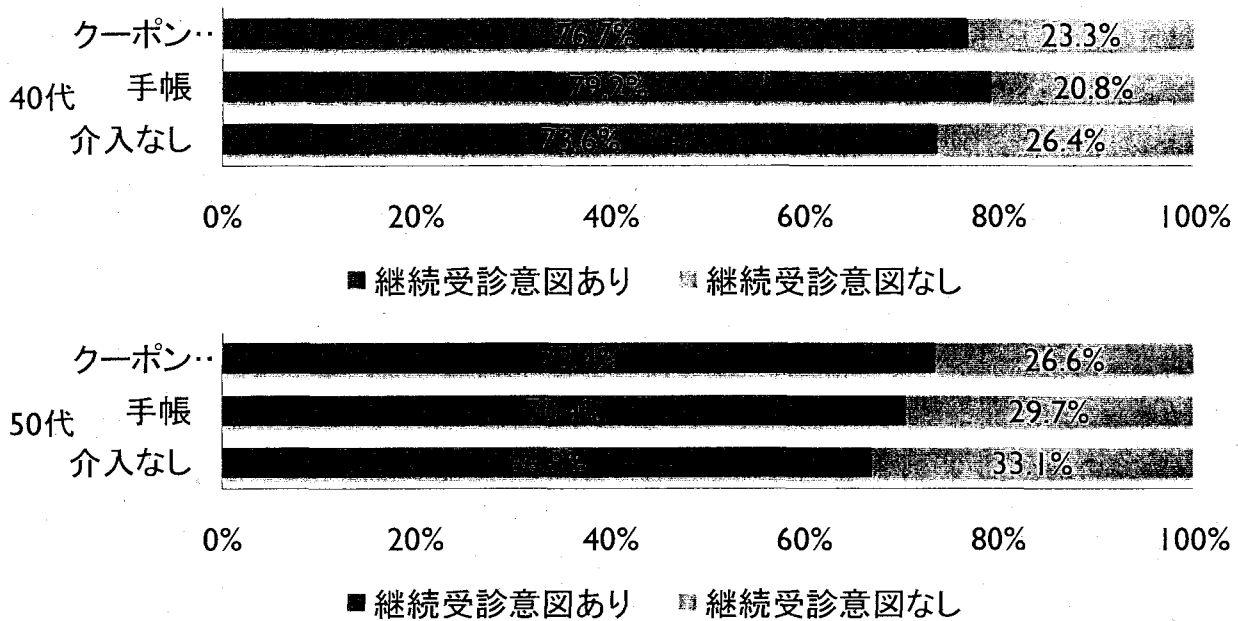
▶ 40代においては検診手帳がより効果的

▶ 50代においてはクーポンが著しく効果的



年代による違い(継続的受診意図に与える効果)

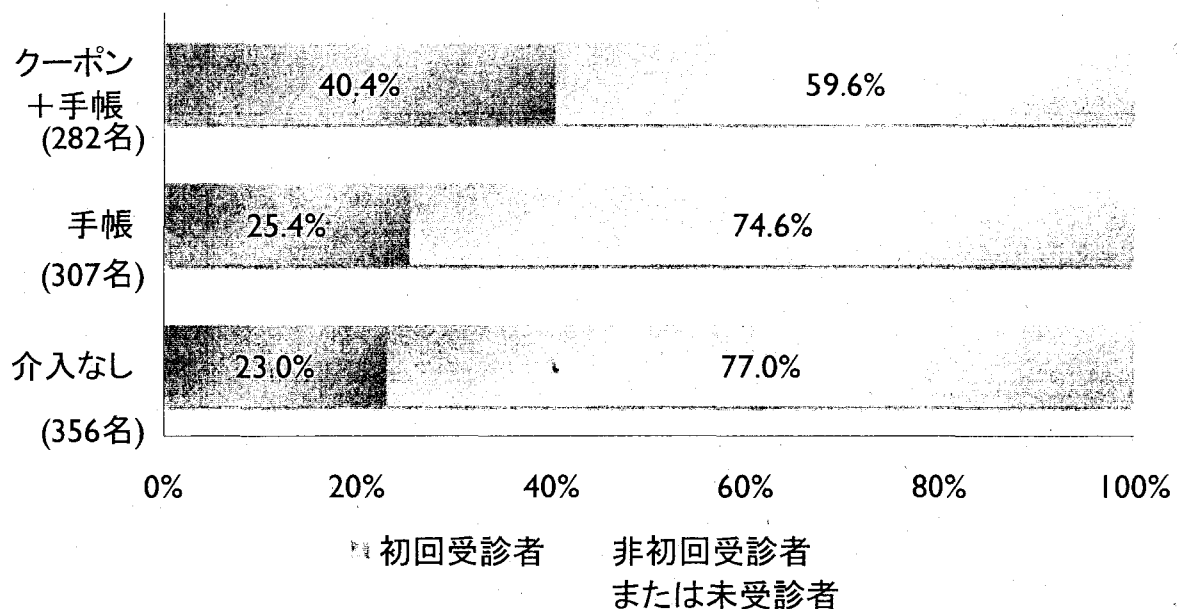
▶ 40代に対する手帳がより効果的



参考：検診手帳・クーポンの効果(初回受診)

これまでに一度も受診の見られなかった対象者

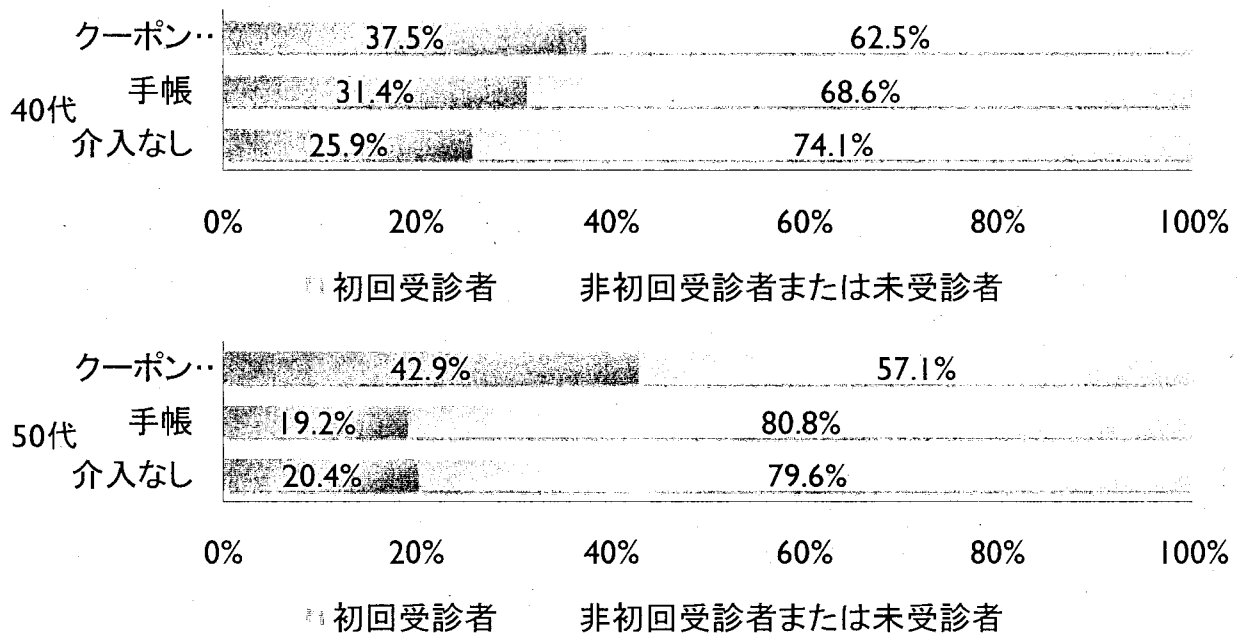
▶ 手帳の効果は見られなかったがクーポン配布群で統計学的に有意な初回受診率の向上*



* p=0.001

参考：検診手帳・クーポンの効果(初回受診) これまでに一度も受診の見られなかった対象者

▶ 50代におけるクーポンがとくに効果的



まとめ

- ▶ クーポンおよび手帳の配布はともに初回受診率および全受診率向上に有意な効果
- ▶ クーポンは初回受診にとくに効果的
- ▶ 手帳のみ今後の受診意図に関しての効果が見られた
- ▶ 40代の受診率にはとくに検診手帳の効果が高い
- ▶ 50代受診率にはとくに無料クーポンの効果が高い
- ▶ 継続的な受診意図の向上が今後の課題